

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	追手門学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オウテモンガクインダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	短期海外セミナー 海外実践型インターンシップinベトナム
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	大串恵太 常勤講師 キャリア開発センター副センター長宗 浩嗣 国際交流教育センター主任
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	20	
受入企業等数	1	
受入企業等名	株式会社フジオフードシステム	
インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	株)フジオフードシステムのベトナム進出に関わる現地調査活動、および戦略提案に取り組むもの。調査設計も全て学生による。事前研修と海外戦略担当者へのヒアリングを経て渡航し、1週目ホーチミンでのビジネストレーニングを経て、2週目はハノイへ。協定大学(FTU)でベトナムの文化経済について講義を受け、日系企業(TOTO)を視察。並行して現地学生達の力を借りながら市場調査に取り組み、帰国後企業でのプレゼンを実施した。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	全学年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	「基盤教育科目」中の「総合科目群-国際交流科目」に位置づけられる「短期海外セミナー」として実施した。シラバスと学生向けの履修の手引きにおいて、ディプロマポリシーや教育理念との関連を明記するとともに、より具体的な実施目的や期待する教育効果については、プログラム説明のリーフレットに明記している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	個別の振り返り面談
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中、教職員が現地に同行している。	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの事前学習となるガイダンスを全5コマ(1コマ90分)実施している。インターンシップ参加の心構え、目的・目標設定、企業・業界研究、ビジネスマナー等について座学とワークを交えて学ぶ。加えて、海外での危機管理に関するセミナー、ベトナムに関する事前学習をそれぞれ1コマ90分程度実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習中、学生は日報を用いて現場での体験を日々振り返っている。終了後は、事後学習のガイダンスを1コマ90分実施するとともに、他のインターンシッププログラム参加者と合同の実習報告会を開催。学生がプロジェクトの成果と自身の成長について発表してフィードバックをもらう機会を作っている。あわせて、学生はインターンシップでの学び・気づきを明確にするためのレポート作成にも取り組んでいる。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	全期間を通じ、担当コーディネーターの教員が随行しており、プロジェクトの進捗や学生の様子を見て、適宜必要に応じてコーチングをおこなう。また、学生は毎日日報を提出しており、個々の学びの整理を促すと同時に、これがモニタリングツールとしても機能している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学の教育目標から項目を定義した独自の形成的EBM(evidence based measurement)指標を用いて、インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握・評価している。インターンシップ中の行動とその結果を記述することにより、従来の自己評価による指標では担保しにくかった客観性のある評価が可能になる。学生も自身の経験や学びを言語化することができる。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習14日間と事前事後研修2日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	現地ベトナムでの実習2週間に加えて、事前事後の国内事業所での研修を各1日実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事業所の経営課題に即したプロジェクトを、大学の専門人材が事業所担当者と共に設計している。事業所が学生への事前学習としておこなう経営戦略や海外展開戦略のレクチャーについても専門人材がヒアリングの上で内容を調整し、現場のファシリテーションに入っている。また、現地協定大学の協力等のアレンジは専門人材と協議の上で大学の国際教育部門がおこなっている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	シラバスは静的URLがないため、詳細資料とあわせて別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	追手門学院大学
	担当部署名	就職・キャリア支援課
	担当者役職名	
	担当者氏名	山元 隆広
	電話番号	072-641-9155
	メールアドレス	intern@otemon.ac.jp